

# 津波避難訓練および支援ツールの開発研究

○李勇昕・矢守克也 京都大学防災研究所

SIP 戦略的イノベーション創造プログラム  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program



## 1.はじめに

- 目的:本研究は、南海トラフの巨大地震・津波を前提に、国(内閣府)による被害想定においても最も効果的に人的被害を軽減するための方策とされた住民の避難対策という一点に焦点を絞り込み、津波避難に関する国民のリテラシーと対応能力を向上させるための切り札的な支援パッケージを開発しようとするものである。
- 津波避難訓練に関する課題への克服:  
訓練活動の単純さ、マンネリ化、  
地域の条件を無視した画一性、行政主導

## 2.「逃げトレ」アプリとは

「逃げトレ」アプリ:避難対策を個人的なレベルで強力に推進するツールとして、訓練参加者の個別の行動と津波浸水の状況を同じスマホ画面で同時に確認可能な可視化ツール



## 3.「逃げトレ」の機能

- 地震から避難開始までの時間設定
- 訓練中:学習モードと訓練モード
- 訓練結果の判定:成功「○」、危機一髪「△」、失敗「×」
- 訓練結果の確認:避難時間、危険場所、避難状況などの情報
- 津波避難の学習:津波想定、津波避難の流れ、ハザードマップの見方

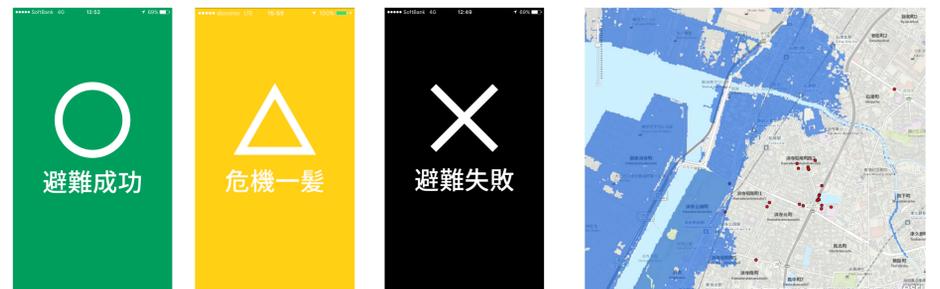


## 4.「逃げトレ」の特徴

### (1)津波の可視化

- 津波の来襲状況津波の切迫性を実感する  
効果:津波に対する漠然としたイメージを克服
- 3つの時間を意識する
  - ①避難準備にかかる時間
  - ②避難した時間
  - ③津波に追いつかれる最短の時間
 効果:意識的に避難行動を変更することができる

### (2)訓練結果の判定



### (3)住民とともに開発

- アプリを用いた社会実験を何度も繰り返しながらアプリをバージョンアップしている
- 専門家だけがアプリ開発を主導するのではなく、実際に避難する地域住民とともにアプリ開発に参加する
- 社会実装、テストラン  
大阪府堺市、千葉県いすみ市、鴨川市  
高知県四万十町および黒潮町

### (4)多様な使用法



動画の活用



防災ワークショップ

## 5. おわりに

- 本研究は、単なる技術開発に終わらず、社会的受容を推進するための普及パッケージとして整備するための取り組みを行った
- 今後とも、本アプリの利活用の新たな可能性を模索する
- 各市町村が逃げトレの導入希望に応じる体制を整える
- ストア登録に向けた手続きをすすめていく



高知県四万十町津地区避難訓練 20160828



大阪府堺市避難訓練 20160228